様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５００７３６

研究課題名（和文）スポーツが提起する社会的価値観の構造

研究課題名（英文）Cognitive societal human values of sports: After the 2011 disaster of Japan

研究代表者
佐々木　康（Sasaki, Koh）

名古屋大学・総合保健体育科学センター・教授

研究者番号：００１８３３７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：人々とスポーツと社会をつなぐ『価値観構造』の実証的検討.『価値観』は人々の葛藤への対処や厳しい現実社会に生抜く叡智を形成する理念総合体である.2011年3月我国を襲った東日本大震災の人的組織的損失規模は想定の域を遥かに超えスポーツ活動の自粛観を惹起した.一方で直後からスポーツ界は地域救済への様々な義援活動を展開する.本研究は,新しい社会学・経営学理論である『希望学』や『時間展望研究』などに学びつつスポーツ独自の価値観理解を社会経営に活かす論拠を提起するものである.人々が極限状況からいかに次代へ挑む意志と動機を見出すのか.諸々の実践経営理論の援用により,次代のスポーツ価値観経営モデルを構築する.

研究成果の概要（英文）：This descriptive study investigates the recognized human value structure of sports in an anxiety situation by applying the life management concept of ‘time perspective’ and ‘hope’. The question asked to the participants was ‘What types of values do you recognize in Japanese benevolent sports activities to help the damaged society after the 2011 disaster?’ The participants ranked eighteen items (1 to 18) terminal and instrumental values. Network analysis (graph theory and centering resonance analysis) presents the holistic evaluation method for the positional functions of societal values and organization. The network centrality analysis may clarify the human values of sports after the 2011 disaster of Japan.

研究分野：スポーツ経営学

キーワード：スポーツ経営学　社会的価値観　ネットワーク分析

１．研究開始当初の背景

日本社会に千年に一度という大打撃をもたらし続ける震災により、国民の次代への希望が阻喪しつつある。きしくも『希望学』（2004）や『時間的展望研究』(2007)という社会経営の重要な課題が出自し始めたのは 2000 年以降である。その論点は安易な楽観主義ではなく、深刻な社会停滞の中で、次代と正面から対座する肯定的思考の構造を丹念に解きほぐしてゆこうという視点である。本研究は人々の『希望への時間的展望』を見出す兆しを集結する具象として、スポーツを設定し、『スポーツの価値観を社会的経営に活かす論脈』を考察するものである。

1990 年前半期まで、高度成長社会で陥りがちな過度の楽観主義に基づくライフスタイル・マネジメント研究が跋扈する潮流があったが、そこに一石を投じ棹差したのは社会心理学者ロキーチが提唱した『価値観研究』である。即ち価値観研究は『気まぐれな楽観主義』に揺れ動く時流の、奥底に潜む命脈たる動機や行動規範を追及するものであり、消費誘導主義的なライフスタイル・マネジメント追求とは一線を描した立場を強調する。ロキーチの価値観研究（Rokeach's Human Value Study:以下 RHV）は、例えば『達成観―絶えざる献身』、『救済する心』、『真の友情』等、人々の『最終価値』（Terminal values：End-state of Existence）項目と、そこへの接近手法としての「勇気」、「論理的」、「開かれた心」、「許す心」等 18 項目の『手段価値』（Instrumental values: mode of conduct）項目で構成される。これらは過去 40 年余の様々な国・集団を対象とし見出された項目群であるが、被調査者は項目の優先順位を序列化することで価値観に対する段階構造を示すことになる。価値観研究は多くの国・地域で喫緊の政策課題や将来展望の指針把握手法として展開されている（例えば EC2007 レポート,世界価値観調査 2010 等）。これまで本申請者は青年期のスポーツ動機を探るために価値観研究を適宜援用してきたが、今回、更に深く着手すべきであると着想した発端は、2010 サッカーワールドカップ準々決勝進出を賭けた日本代表 PK 戦の『挑戦』や、2011 震災義援ゲーム・日本代表対 J リーグ選抜戦、海外選手からのメッセージ、そして被災地のスポーツクラブを中心とした粛々たる復興活動の目撃にある。そこに、社会に風土として集積された『スポーツの価値観』が命脈として深く在るという想定の下、「スポーツは社会にどのような価値観を伝えているのか？」という問いを内外学生、指導者層に試行している。結果は各各に興味深い潜在因子が観察できるものであるが、更にデータを拡張し、国内外での一般化を射程に置き据えることで、『スポーツ価値観』としての存立構造が構築されると考える。スポーツ界は自らの存在理由として『価値観経営』の在り方を世に問う使命をもつのではないか。

価値観という理念様式を考察するに当たり『希望学』や『時間的展望研究』などの社会経営学の論点に加え、スポーツに関する社会心理理論のなかで「人々は何故、極限状況でのスポーツに挑むか」を考察する『存在論的脅威理論』等も援用する。心身に危険を及ぼす活動は生命の有限性を知ることであるが、そこに挑む心理としては『ある種の文化』という普遍的価値観への接近により、改めて生命の有限性を知り得るという、両義的認識が作用するという考え方である。すなわち本研究の価値観解釈は、現代社会経営学に具象として求められる『献身』,『救済』,『勇気』,『論理的』等,多義的ではあるが根幹にあるであろう『存在論』に切込むものである。

２．研究の目的

スポーツが社会に提起する『価値観構造』を実証的に検討する。『価値観』とは人々の葛藤への対処や意思決定を導く理念である。2011 年 3 月、我が国を襲った東日本大震災の人的組織的損失規模は想像の域を超え、スポーツ活動等の自粛観を惹起した。一方で直後から、スポーツ界は地域救済への様々な義援活動を展開する。本研究は、新しい社会学・経営学理論である『希望学』や『時間展望研究』に学びながら、スポーツ独自の価値観構造を社会経営に活かす論拠を提起するものである。人々が極限状況からいかに次代へ挑む経営動因を見出すのか。諸々の実践経営理論の援用により、次代に活きるスポーツ価値観経営モデルの開発を目指す事が本研究の目的である。

３．研究の方法

本研究に於いてはスポーツ活動の中で、心身の極限に挑む状況設定として、いわゆる競技スポーツに焦点を絞り検討するものである。項目の検討のため、スポーツ政策、競技組織の強化・普及の有識者会議を行い、実践および施策に適合する価値観のディスコース（文脈）を明らかにし、並行してデータ収集を内外で行う。スポーツ価値観構の順位構造に加えて、共通因子の抽出等、多変量解析アプローチからも解釈を試行する。さらに構造理解の為の視覚化についても多次元構造を理解しやすい形式で提示する手法を提起する。

極限状況に挑む実践的価値観については、本研究者らが進めている、『競技組織生成』のフィールド調査（2007,2010）や『存在論的脅威理論』（terror management theory）研究（2010）を援用することでスポーツと社会帰属といった関係構造が浮き彫りにできると考える。

４．研究成果

国内データに加えて国外データの収集も進めることができた。また投稿した論文はスポーツ科学の領域を超えた、社会学プロパー国際誌に受理されたことは計画以上の進展と考える。ある競技の国を代表するチーム組織による世界への『挑戦』が、その『時の確かな記憶』として社会に対して深い印象を伝えたのではないかという想定の下に、「挑戦は日本社会にどのような価値を伝えていると思いますか？」といった問いには今後も重要な論点であると考える。Sasaki Koh, et al, Cognitive societal human values of sports: After the 2011 disaster of Japan, Social Sciences, 2(1),pp1-6, 2013. DOI:10.11648/j.ss.20130201.11の他に佐々木康,ハストルーニー,村上純,下園博信,宮尾正彦,早坂一成,中本光行,渡邊一郎,山本巧,山下修平,黒岩純,上野裕一,岩淵健輔,中竹竜二,薫田真弘,古川拓生,勝田隆,河野一郎，社会資本たる競技空間：孤独な群衆を同志集団へ，ラグビー科学研究，24(1)，37－48，2013 でも価値観についての考察を行った。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

Sasaki Koh, Kayoko Komatsu, Takumi Yamamoto,Yuichi Ueno, Takashi Katsuta, Ichiro Kono, Cognitive societal human values of sports: After the 2011 disaster of Japan, Social Sciences, 2(1), pp.1-6, 2013, DOI: 10.11648/j.ss.20130201.11.

Sasaki Koh, T.Yamamoto, Y.Ueno, T.Katsuta, I.Kono, Proud lonely athletes: Using network centrality analysis to clarify the societal values of sport after the 2011 disaster in Japan. *Advances in Social Sciences Research Journal,* 83-92, 2(5), DOI:10.14738/assrj.25.1173.

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
佐々木康（Sasaki Koh）

研究者番号：00183377

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：